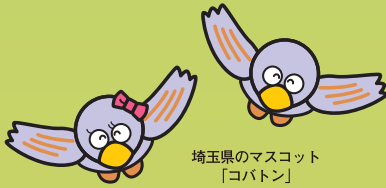


埼玉農林業・農山村振興ビジョン

明日の埼玉の種をまこう

ダイジェスト版



埼玉県のマスコット
「コバトン」



彩の国 埼玉県

ごあいさつ



農林業・農山村は、食料の供給や優れた木材の生産を行うだけでなく、環境も含めた県民の健康と暮らしを守る「生命産業」です。また、豊かな県民生活の実現のために掛け替えのないものです。

近年、我が国の農林業・農山村について、「後継者がなく遊休農地が増えている」、「森林の手入れができない」といったことが当たり前のようになっています。

確かに、農産物や木材の価格低迷をはじめ農林業を取り巻く環境は厳しいことは事実です。しかし、県内には全国屈指の素晴らしい経営をされている農林業者がたくさんおられます。そうした元気に活躍されている皆様の様子を拝見すれば、様々な努力と創意工夫を積み重ね、生産性を高めて収益増につなげることは十分に可能であることが分かります。このような収益力ある経営体では、経営を引き継いだ若い世代による一層の発展が期待できます。

また、元気な農林業、豊かな農山村は、都市と農山村の魅力を同時に味わえる田園都市埼玉の実現に欠かせないものです。自然の心地よさや人々の温かさを感じながら、農産物直売所を巡り地域の特産物を楽しんだり、仲間と共に森林の手入れに汗を流すなど、こうした田園都市埼玉だからできる感動体験は、生活に豊かさをもたらします。

県では、農林業を収益力ある魅力的な産業として確立し、担い手の皆様の経営努力が活かされる環境づくりを進めます。さらに、県民の皆様が農林業・農山村に親しみながら、その生活に活かしていこうとする活動を推進していきます。このため「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」を策定しました。

ビジョンに掲げている埼玉農林業の活力を更に高める取組を進めることにより、県民の皆様の支持と応援が広がり、農林業者の皆様の自信を深めて新たな取組へと結びつくような、農林業を巡る好循環が大きなムーブメントとなるものと私は考えています。

結びに、ビジョン策定に当たって貴重な御意見をいただいた各界各層の皆様にお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

埼玉県知事 上田清司

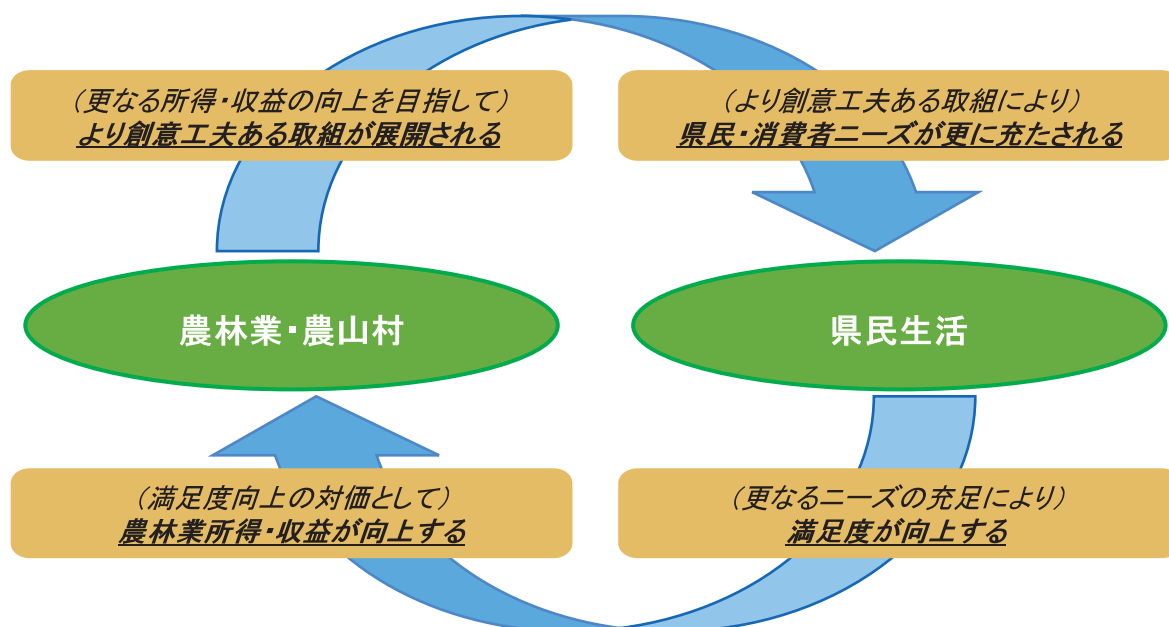
策定のねらい

本県の農林業・農山村が県民生活の安心と活力の確保、魅力ある郷土づくりという役割を時代を超えて果たしていくためには、その更なる発展を図っていく必要があります。

県民に支持され収益力ある農林業・農山村が、より豊かで安らぎある県民生活をつくる好循環を実現することにより、農林業・農山村の更なる発展につながります。

このような考え方の下、本県の農林業・農山村がつくる県民生活の将来像を描くとともに、その実現に向けた施策展開の指針を示すものとして、「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」を策定しました。

「安心」「活力」「郷土づくり」で県民生活に貢献 *



* 県民が支持し親しむ農林業・農山村

消費地と産地が近く、消費者と生産者との交流が行いやすい本県は、こうした好循環を生み出す上で好条件

目標年度

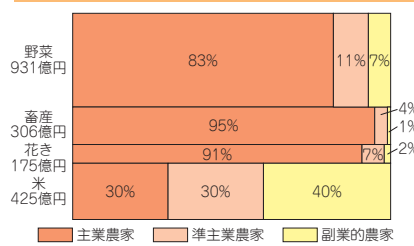
平成23年度（2011年度）から5年後の平成27年度（2015年度）とします。

埼玉農林業・農山村の姿

農業の構造

- 農家数、耕地面積は減少しているが、大規模経営体や農業法人が増加。5ha以上の経営体もここ20年で5倍。
- 新規就農者は近年増加傾向。
- 米は主業農家が30%と低水準。

農業産出額に占める主業農家の割合 (H20)

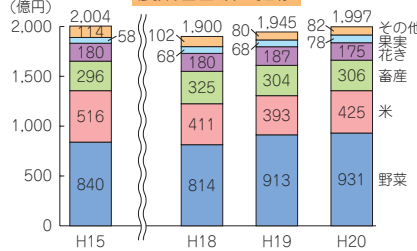


・収益力向上を通じ、地域農業を担う経営体が更に育成されることが重要。
 ・土地利用型農業について生産性の高い地域農業構造の実現が重要。

農産物の生産

- 地勢にあった地域農業により、多彩な農産物を生産。
- 耕地利用率は漸増し、88%に回復。
- 農業産出額は1,997億円 (H20) で、2年連続で増加。野菜が47%。

農業産出額の推移

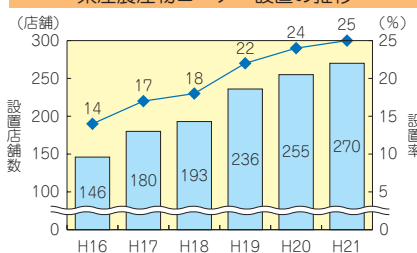


・恵まれた条件を十分に活用し、各地域の特性を活かした魅力ある農産物の生産が重要。

食と農の接点

- 県内の有人農産物直売所は273か所、販売金額は250億円。ここ5年間で約70億円増加。
- 量販店の県産農産物コーナーが増加。
- 本県の食料品製造出荷額は全国3位。

県産農産物コーナー設置の推移



・豊かな食卓への貢献と、販路の拡大による農業経営の発展が重要。
 ・農業と食品産業の双方が持続的に発展することが重要。

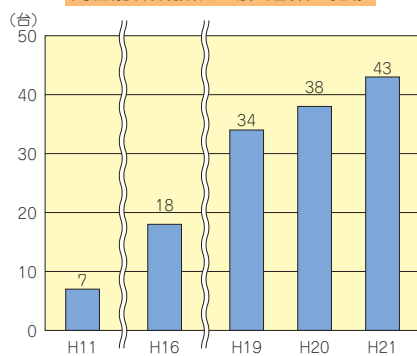
森林

- 県内の森林面積は12.2万ha、県土面積の32%。
- 人工林の約半分が伐採期。

林業の構造

- 高性能林業機械の導入台数は、43台で、ここ10年で約6倍。
- 県産木材供給量は7.1万m³で近年増加。

高性能林業機械の導入台数の推移



・県民生活に貢献する森林の多様な機能の発揮が重要。

・県産木材の安定供給と素材としての良さへの理解による、県産木材の利用拡大が重要。

農山村

- 農地や森林、農業用水利施設などは、田園都市埼玉の形成を担う社会的財産。
- 野生鳥獣による農林業被害が発生。
- バイオマスが豊富に存在。

多面的機能

- 農林業・農山村は県民生活に深くかかわる多面的機能を発揮。

農林業の多面的機能の例

- 良好な景観の形成
- 二酸化炭素吸収
- 水源かん養
- 洪水防止
- 保健休養・やすらぎ

・快適な農山村空間を提供するとともに、農山村に存在する多様な資源の有効活用が重要。

・農林業が健全に営まれる中、すべての県民が享受する多面的機能が持続的に発揮されることが重要。

潮流・将来像・取組の考え方

農林業・農山村を巡る潮流

世界の食料需給は中長期的にひっ迫することが懸念

世界の木材需要が高まる中で国産材利用の動き

農林業分野でのグローバル化が一段と進展する可能性

地球温暖化をはじめとする環境問題の深刻化

社会全体として雇用創出の必要性の高まり

人々の価値観及びライフスタイルの多様化

ビジョンが目指す将来像

- 1 食料などの安定供給を通じて農業が豊かな県民生活を支えています。
また、県民に支持され、収益力ある農業が展開されています。
- 2 きれいな水や空気を生み出し、温暖化を緩和する森林が県民の暮らしを守る基盤になっています。
また、県産木材の利用が進み、「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用が実現しています。
- 3 地域住民が快適に生活する場、広く県民がゆとりや憩いを得る場・農林業を体験する様々な活動の場として、農山村が県民共通の財産となっています。
- 4 自らの価値観・ライフスタイルに応じて県民が多面的機能を積極的に活用し、充実した生活・人生の実現につなげています。

取組の基本的な考え方

食料・農業

「担い手・生産・販売」の三位一体的な推進により、食料供給力の向上を図ります。

森林・林業

多様な森林の整備と森林の循環利用により、森林・林業の再生を図ります。

農山村

美しく活力ある農山村づくりにより、農山村の魅力向上を図ります。

多面的機能

県民の価値観及びライフスタイルに応じた多面的機能の積極活用を促進します。

取組の展開方向

1 意欲ある多様な担い手を育てる

自ら創意工夫し、意欲的に経営発展に取り組む農業者に対し、その経営状況等に応じた栽培技術の改善や経営の向上、法人化などを支援します。これにより、認定農業者など経営力のある担い手が生産の中心を担いながら、意欲ある多様な担い手が活動できる地域農業の実現を図ります。

【取組内容】

- (1)経営力ある担い手の育成
- (2)次代を担う新規就農者の確保
- (3)多様な担い手の育成
- (4)農業雇用の拡大

農業法人数 現状値 417 法人 → 目標値 800 法人
新規就農者数 現状値 248 人 → 目標値 280 人



2 優良農地を活用して最大限の生産を行う

農業経営や農業生産の基礎となる優良農地の確保と有効利用を図り、農業生産を支える良好な営農条件を確保する農業生産基盤整備を推進します。

また、積極的に消費者や実需者の需要を開拓・創出していく産地の戦略的な提案型の取組を促進します。

【取組内容】

- (1)優良農地の確保と有効利用
- (2)農業生産を支える基盤整備の推進
- (3)産地の戦略的な取組の展開

野菜重要品目の生産面積 現状値 7,378ha → 目標値 8,430ha
遊休農地解消・活用面積 現状値 1,227ha → 目標値 1,500ha
ほ場整備実施面積 現状値 21,870ha → 目標値 22,370ha
ほ場整備実施面積（うち埼玉型ほ場整備実施面積） 現状値 0ha → 目標値 230ha



3 農業経営の安定・発展に向けて支援する

農業者が安心して積極的に農業経営に取り組み、農業経営の安定と発展が図られるよう、各種の制度資金の活用など現場のニーズに応じた支援を実施するとともに、本県農林業の将来的な発展の鍵を握る試験研究を効率的・効果的に推進します。

また、環境に配慮した農業を振興するとともに、都市地域や中山間地域の農業について地域の特性に応じた支援を実施します。

【取組内容】

- (1)経営の基礎となる条件の整備
- (2)試験研究の推進
- (3)環境に配慮した農業の振興
- (4)都市農業の振興
- (5)中山間地域農業の振興の確保

4 県産農産物を軸とした食と農をつなぐ仕組みをつくる

大消費地の中の農業県、食品産業立地県という全国的に見ても特色のある本県の強みを最大限に活かし、地産地消、農業の6次産業化、農商工連携など食と農をつなぐ仕組みづくりを積極的に推進します。

これにより、県民（消費者）と農業者（産地）の接点を一層強化し、県産農産物が消費者に選ばれ、喜ばれるという関係を継続、発展できるよう取り組むとともに、農業者（産地）の販売力強化を支援します。

【取組内容】

- (1)地産地消の促進
- (2)農業の6次産業化・農商工連携の促進
- (3)流通システムの合理化
- (4)ブランド化の推進の確保

県産農産物コーナー設置店舗数 現状値 270 店舗 → 目標値 500 店舗
地場農産物を原料とした地域商品の開発数 現状値 250 商品 → 目標値 550 商品



5 食の安全・安心を確保する

消費者が安心して日常の消費活動が行えるよう、農産物の生産工程管理（GAP）の実践などにより、生産段階から安全性を確保するとともに、適正な食品表示による食に対する消費者の信頼を確保します。

また、これと連動して、大消費地の中の農業県という本県の強みを活かし、地産地消、都市と農山村の交流の活発化を図り、生産者と県民（消費者）がお互いの顔が見える関係の中で信頼関係を構築し、身近な県産農産物への安心感を醸成します。

【取組内容】

- (1)食の安全性の確保
- (2)適正な食品表示による県民の食への信頼の確保

GAP 実践集団数 現状値 17 集団 → 目標値 29 集団

6 多様で健全な森林をつくる・まもる

水源かん養など多面的機能を通じて県民生活に恩恵をもたらす社会資本としての森林の性格を踏まえ、針広混交林化、広葉樹林化、長伐期化等により、100年先を見据える多様で健全な森林の整備と保全を進めます。

【取組内容】

- (1)多様な機能を発揮させる森林の整備
- (2)森林の保全管理

森林の整備面積 現状値 12,711ha → 目標値 14,000ha
花粉発生源対策を行ったスギ林面積 現状値 1,740ha → 目標値 6,300ha



7 森林を循環的に利用する

森林の循環利用の実現に向け、効率的な木材生産による伐採・利用の拡大、施業の低コスト化による造林・保育の推進等を図ります。

【取組内容】

- (1)伐採及び利用の拡大
- (2)造林及び保育の推進
- (3)担い手の育成
- (4)多様な森林資源の活用

施業のため集約化・団地化する森林面積 現状値 0ha → 目標値 10,000ha
作業道延長 現状値 130km → 目標値 500km



8 県産木材を使う・親しむ

県産木材の利用拡大を図るため、新用途の開発や県民運動を支援します。

また、公共施設の木造化・木質化を推進するとともに、民間住宅等での利用拡大を支援します。

さらに、こうした県産木材の利用拡大を支える安定的な供給体制の整備を促進します。

【取組内容】

- (1)多様な県産木材の利用拡大
- (2)公共施設での利用拡大
- (3)民間住宅等での利用拡大
- (4)安定的な供給体制の構築

県産木材の供給量 現状値 71,000 m³ → 目標値 101,000 m³
県産木材を使用した住宅戸数 現状値 1,370 戸 → 目標値 3,200 戸



9 美しく活力ある農山村をつくる

美しく快適な環境づくりのほか、深刻化する鳥獣被害への対策、バイオマス等を活用したビジネスチャンスの創出を進め、県民共通の財産としての魅力を高めます。

【取組内容】

- (1)美しく快適な農山村の環境整備
- (2)鳥獣被害防止対策の推進
- (3)低未利用資源の利用促進

農業集落排水施設の普及率 現状値 45% → 目標値 50%
鳥獣被害防止活動に取り組む市町村協議会数 現状値 10 市町村 → 目標値 20 市町村



10 農林業・農山村の多面的機能を学ぶ・使う・楽しむ

農林業・農山村の多面的機能について、多様な体験交流の場づくり等を進めることにより、広く県民に理解され、県民生活の中で積極的に活用されるよう取り組みます。

【取組内容】

- (1)県民理解の促進
- (2)都市と農山村の交流
- (3)体験及び学習機会の充実
- (4)県民参加の森林づくりの推進
- (5)豊かな水辺環境の活用促進

市民農園の利用世帯数 現状値 10,600 世帯 → 目標値 14,600 世帯
森林ボランティア活動に参加する企業・団体数 現状値 106 団体 → 目標値 200 団体



ビジョンの推進に当たって

ビジョンで示した将来像の実現には一人でも多くの県民の理解と協働を得ながら、農林業者はもとより、農林業団体、市町村、県等が十分に連携し、積極的な取組を展開することが必要です。

将来像の実現に向け、県として率先して取り組むとともに、関係者の意欲的な取組を支援します。

ビジョンで示した将来像 = 「農」と「森林」を通じて 県民全体が共生する姿を目指して

県民（消費者）全体

～理解・参加・協働～

- ・ 本県の農林業・農山村の現状、「農」と「森林」の意義に対する理解の深化
- ・ 多面的機能の生活への取入れ・活用

農林業者

～主体的な取組～

- ・ 創意工夫を発揮して経営改善に取り組むなど主体的な活動
- ・ 地域に合った生産体制づくりへの取組
- ・ 地域住民との連携や都市・農山村交流への積極的な働きかけ

支援

農林業団体・行政への期待される役割

【農林業団体】

- ・ ニーズに対応したサービスの提供や事業活動
- ・ 市町村、県と連携しつつ、産地が発展していく戦略を描き推進
- ・ 生産体制の構築や地域資源の保全活動への主体的取組

【市町村】

- ・ 地域で主体的役割を発揮し、農林業・農山村に関する施策を推進
- ・ 地域の特性を活かす取組の展開

【県】

- ・ 意欲的な取組に対して重点的に支援
- ・ 本県農林業・農山村に有効な情報の収集と発信
- ・ コーディネート機能の強化、ワンストップ型の行政サービスの充実

ビジョン の実効性 の確保

- ・ 県民（消費者）の視点に立った取組の展開
- ・ 農林業者及び地域による主体的で創意工夫のある取組の展開
- ・ メリハリのある分かりやすい施策体系の構築